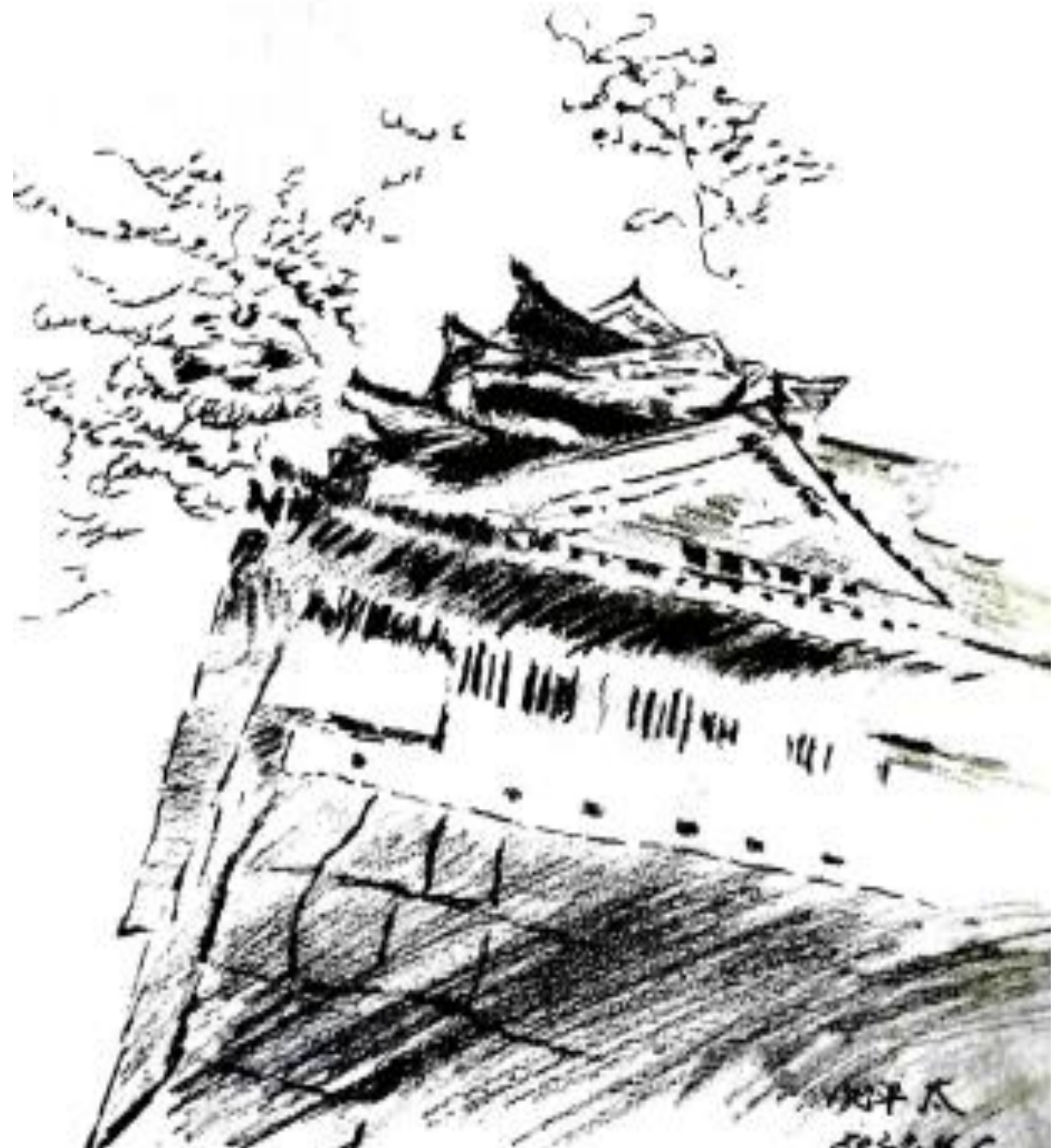


# 閣守天柳川

2024年7月号



# 第15回例会 2024年6月15日(土) 投句締切分

## お題 「ポケット」

井澤 壽峰 選

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| ポケットのスマホが覗く近未来      | 堀内きみ子 |
| ポケットに夢はないけど小銭ある     | ルイ    |
| 現金払い通すつもりのアナログ派     | 蔵内歳重  |
| 歯周ポケットに居座っているバイキンマン | 波部珀兎  |
| ポケットの数だけ隠す裏金を       | 岩原一角  |
| 切り札を内ポケットに隠し持つ      | 由夏    |
| ポケットの数を求めてワークマン     | 三枝なな  |
| ポケットに絶望だって詰めている     | 直子    |
| ポケットに仕舞い込んでた命綱      | 直子    |
| ポケットが浅くて嘘が仕舞えない     | 鳥根写太  |
| 駄菓子屋へ急ぐポケットワンコイン    | 久世高鷲  |
| ポケットに夢だけ詰めて旅に出る     | 蔵内歳重  |
| ポケットに命を入れる新生児       | ルイ    |
| 袖の下隠しポケット知っている      | 岡野とら丸 |
| 裏金はポケットの外はみ出てる      | 岩原一角  |

### (五客)

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 佳5 わんぱく坊主ポケにいつも悪巧み | 林ともこ  |
| 佳4 空っぽのポケケカンガルーの虚ろ | 秋田あかり |
| 佳3 ポケットに入り切れないデカイ夢 | 久世高鷲  |

- |                  |      |
|------------------|------|
| 佳2 ポケットの握り拳が煮え滾る | 山野寿之 |
| 佳1 四次元のポケット探す夢の中 | 美代   |

### (三才)

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| 人 ポケットのティッシュ洗濯機でオヨヨ | 林ともこ  |
| 地 ポケットの隅に隠した苦い過去    | 堀内きみ子 |
| 天 少年のポケット夢のてんこ盛り    | 山野寿之  |
| 軸 秘めた恋内ポケットに蹲る      | 井澤壽峰  |

### (選評)

#### 人の句

日常誰しも経験の有る場面を的確に捉えユーモアに表現した  
ユーモア句となっている。ポケットから日常茶飯事に使われる洗濯  
機に発想を飛ばした作者にユーモア句の原点を改めて教えられました。

#### 地の句

人生百年時代、長い生き様の中一つや二つの苦い経験は  
誰しも持つているものである。その些細な呵責をポケット  
に隠していると表現し、共感を巧みに促す句となっている。

#### 天の句

少子化が益々深刻化する世の中此れからの社会を担って行く  
少年達の活躍は必然である。少年の限らない夢を存分に発揮し  
高齢化社会に対抗して良き社会を是非構築して欲しいものである。

# お題 「緑」

土井 直子 選

臭いけど爽やか緑変な虫

どんぐりも交えて植える植樹祭

万緑が活力くれる五月晴れ

信号は全部緑と突っ走り

ウクライナ緑の季節まだ来ない

早朝の苔むす庭の音を聴く

緑陰に集えば噂盛り上がる

目に染みる松の緑に精もらう

新緑に力あるらし歩が伸びる

目覚めたら緑になっていた車窓

風みどり五臓六腑をなめ尽くす

タワマンの窓に緑がパセリほど

ジャングルを燃やし発展願う国

全開の窓へ緑風招き入れ

エメラルド越してダイヤへ二重奏

## (五客)

佳5 新緑のシャワーで心取りもどす

佳4 眼の中に白も緑も住んでいる

佳3 新緑を纏って春がやってくる

佳2 水無月は緑の絵の具ばかり減り

佳1 色付きで吹き抜けてきた初夏の風

佐野正邦

加山勝久

由夏

岩原一角

武智三成

ルイ

岡野とら丸

武智三成

真鍋心平太

真鍋心平太

秋田あかり

春田敏晴

蔵内歳重

山野寿之

島根写太

船木しげ子

島根写太

林ともこ

下谷憲子

浜脇蓬生

## (三才)

人 新緑の森へ抱かれに行くわたし

地 ふるさとの緑をさげて走る帰路

天 緑虫おとこを知って蝶になる

軸 ひとことこの種で広がる緑の芽

## (選評)

人の句

昔から赤もみじより青もみじが好きだった。それは緑が私の頑なさを柔らかく包んでくれたからだだったのかもしれない、この句は教えてくれた。自分が青もみじのような人間になればわざわざ森へ行かなくても済むのかもしれない。

しかし、私はきつと来年も青もみじ狩りに行くだろう。

要は一年に一度ぐらいは何かに抱きしめて欲しいのである。

地の句

母の介護でふるさとの福岡に帰って7回目の新緑の季節である。母を見る自分の目の変化が、同じ山の緑でも毎年違って見えるものである。いつかまたその緑を持つてどこかの街へ行くことになるだろう。これからどんな新しい緑と出会えるだろうか。楽しみである。

天の句

蝶の世界でも人間界でも出会う「おとこ」次第で雌は黒揚羽や紋白、はたまた蛾に生まれ変わるのかもしれない。各々に個性があり美しさがあるが、緑虫の時に相手が信頼でき魅力ある「おとこ」かどうか見極めることが、その後の蝶の人生を決めることになる。昨今の雌は自分の力でなくAIにそのことを委ねている場合が多い。果たしてそれで大空を飛べるのだろうか。世の中から蝶と子供がこれ以上減らなければいいが…心配である。

# お題 「雑詠」

真鍋心平太 選

失言を抱えたままで梅雨に入る

マグリットの空に巨大な雲の鳩

マルハラと呼ばれようともしつける

手を振って紙ヒコーキは降りてくる

近未来セレンディピティおこる予感

睨んだら睨み返してくる鏡

少年の夢遙か遙かに見る無限

月の夜のベッドにひそむ死生観

父子の昼寝バンザイに目を細め

どん底をバネに刻んだ光る皺

灯りつきベランダごとのぬくさある

術も無く只ひたすらに汗を掻く

低く飛ぶツバメを避ける車椅子

いいひとの振りをやめたい白いバラ

歩行器に背を折った弟が立つ

## (五客)

佳5 束の間の夢を見させるシャボン玉

佳4 生き永らえ領収書を見る十年後

佳3 我儘な膝の気持ちに寄り添いて

佳2 レプリカの鶴が祈願をする平和

直子

平川柳

島根写太

船木しげ子

波部珀兎

下谷憲子

久世高鷲

秋田あかり

林ともこ

山野寿之

ルイ

山野寿之

小林満寿夫

直子

蔵内歳重

岡野とら丸

加山勝久

堀内きみ子

井澤壽峰

佳1 抱っこしておんぶしてママスマホ見る

青空

## (三才)

人 何事もないしあわせの冷奴

林ともこ

地 やわらかな恍惚時計老いた母

平川柳

天 余命いくばくへ乗じてくる笑顔

小林満寿夫

軸 蓋とれば群青の海インク瓶

真鍋心平太

## (選評)

### 人の句

腎臓を悪くして塩分の少ない食事を取るようになったとき、最初はこんなものが食えるかと思ったものだが、6年経った今では食べ物本来の味を美味しいと感じる。それは「何事も無い幸せの味」なのだとの句に教えられた。

### 地の句

認知症は長い時間をかけて生まれてからの記憶を少しずつ消し去って子供のころに戻って行くのだと言う。本人にも介護する人にも辛い病気だが、せめて症状が穏やかなときは句のような「やわらかな時間」が流れていることを願う。

### 天の句

「乗じる」は通常いい意味には使われない。「余命いくばくに乗じる」とは余命宣告を受けた人に向ける笑顔の中に、同情や慰めばかりではないものがあることを暗示して、人生の複雑さに思いが至る。川柳の「うがち」にはこういうものもあると教えられる奥行き深い句である。

# お題 「苦手」

互選

1点

ハワイ旅行苦手な人と鉢合わせ  
ゼ口という必殺技を持つている  
サヨナラへすがりつくよな男の目  
これも加齢聞くのが難儀ピアニシモ  
十指にも及ぶ苦手を我慢する  
ふた親の無言が続く雨の夜

2点

口下手ですんなり行かぬプロポーズ  
会話無く常に微熱のスマ木病  
苦手意識昔も今も変えられず  
席替えて苦手な女性前と右  
覚えてもすぐに忘れる観葉植物  
苦手な人にサフリと言えたらいいね  
料理苦手山積みになるパツク皿  
論理超え好き嫌いで判断する  
へたでいいを味があるねと言ひ換える  
暗算は苦手スマ木に助け船  
あの虫は絶対いやや見たくない  
古民家で甘いお菓子のおもてなし  
逃げ上手苦手ばかりを並べ立て  
一昔苦手克服いま回避  
相談をすると悩みが膨らんだ  
高所恐怖症なのに驚く天守閣  
一人浮く運動音痴盆踊り

林ともこ

船木しげ子

秋田あかり

下谷憲子

武智三成

秋田あかり

井澤壽峰

島根写太

堀内きみ子

加山勝久

小林満寿夫

信子

堀内きみ子

蔵内歳重

三枝なな

久世高鷺

ルイ

佐野正邦

岡野とら丸

ルイ

信子

小林満寿夫  
松島きよみ

3点

必勝は苦手克服以外なし  
お目付け役町内仕切るモンスタ  
パーティーの受付に見る筆・硯  
及第点とれるものしか手を出さず  
歌苦手パソコン苦手口得意  
有言実行の後輩現る

4点

ごめんねが言えないままに仲直り  
苦手なの掃除洗濯お義母さま  
神様も苦手な人があるらしい  
苦手だとわかってからが長い旅  
生き抜くと決めて出てくるアレルギー  
天敵が今日も隣りで高笑い

5点

お客さま電子レジならすぐですが  
男性は家事が苦手と言えぬ今  
こっそりと箸を割ってるレストラン  
嫌いとは言えず苦手と言っておく  
触れないで下さい情が移るから

6点

野菜みな食べたと孫が見せに来る  
生きること苦手になった蝸牛

7点

愛してるこれがどうにも言えぬ僕

9点

お互いに苦手な奴と丁寧語

11点

決断へ苦手意識が邪魔をする

15点

ライバルの何処か棘ある褒め言葉

勘兵衛

松島きよみ

加山勝久

三枝なな

岩原一角

蔵内歳重

真鍋心平太

美代

由夏

直子

直子

由夏

真鍋心平太

勘兵衛

春田敏晴

林ともこ

船木しげ子

春田敏晴

平川柳

佐野正邦

平川柳

岡野とら丸

美代

得点があるものをすべて点数順に掲載しています。  
得点が空白のものは前行の句と同得点です。

お題 「夢」短句

互選

1点

杖で平和をわたくし女神  
夢ばかりみて周り見えない  
天女の舞を松原でする  
夢にまで見た鮎解禁日  
体重計が幸せを言う

松島きよみ  
林ともこ  
船木しげ子  
下谷憲子

あれも夢ですもう届かない  
幸せを呼ぶダイヤの指輪

武智三成

夢と希望を抱くランドセル

井澤壽峰

夢の途中で告げるさよなら

直子

若く温い手りハビリ楽し

青空

絶対はないだから夢見る

小林満寿夫

十七歳にもらった夢と

信子

目覚まし鳴って束の間の夢

浜脇蓬生

語っただけで叶った気になり

浜脇蓬生

夢の中だけ大谷のハグ

由夏

まだ若かった追いかけた夢

春田敏晴

同級会夢多き頃想いだし

加山勝久

ボケ防止にはドリームジャンボ

小林満寿夫

でこぼこの夢やがて頂上

武智三成

控えめなのに夢厚かまし

ルイ

小さくたって楽しい夢さ

ルイ

ひとつ残った夢ピンコロリ

三枝なな

あり得ないこと夢で楽しむ

岡野とら丸

トイレに着けぬ夢で目覚める

岡野とら丸

4点

実現しない夢と現実  
夫婦一緒にタイムカプセル  
嬉しい夢で目覚めてニコリ  
はいと張り上げて夢から覚める  
追いかけてられて夢で良かった  
火遊びは夢もう紙パンツ  
何の夢だかヨダレ水滴

久世高鷲  
真鍋心平太  
由夏  
三枝なな  
青空

5点

解凍を待つマシユマ口の夢  
夢追う夫はいつも少年

秋田あかり  
林ともこ

7点

少年の夢無限に挑む  
出て来た君はあの頃のまま

久世高鷲  
春田敏晴

8点

歩く夢みる車いすの子  
老いのうつつは夢より凄い

平川柳  
真鍋心平太

1511点

夢にも続ききつとあるはず

信子

今月の投句者(30名 敬称略)

井澤壽峰	加山勝久	久世高鷲	勘兵衛	島根写太
山野寿之	岩原一角	信子	春田敏晴	松島きよみ
武智三成	平川柳	ルイ	波部珀兔	三枝なな
真鍋心平太	青空	林とも子	秋田あかり	船木しげ子
浜脇蓬生	直子	由夏	岡野とら丸	蔵内俊重
小林満寿夫	堀内きみ子	下谷憲子	佐野正邦	美代

今月投句者は30名でした。  
皆様ご参加、ご協力ありがとうございました。

## 「歩く」

真鍋心平太

三年前に脊椎管狭窄でトイレに行くのがやっとという状態になったのだが手術が嫌で、ずっと寝る前にヨガの猫の姿勢を15分ほど取ることで、激痛を我慢して最初は数歩、次に10歩と刻みつつリハビリを続け、杖を突き15分に一度休みながらであるが二時間ほど歩けるくらいになって来た。時には痛みで痺れて足の感覚が無くなってしまうほどだったが、諦めずに続けたのが良かったようだ。

狭窄症になる前は良く歩いた。

半蔵門さんと京都東山の太文字や比叡山、大和三山、琵琶湖半周などいろいろなところを歩いた。そのときに買った杖が狭窄症になってから役に立って呉れている。この杖をつきながら楽しかった頃のことを思い出しながら歩いている。

中学の後輩とは大阪守口から京都四條八坂神社まで40kmを10時間かけて三度歩いた。三度のうち二度まで左足の親指の爪がはがれたものだ。家内とも二人京都、奈良、大阪の街中をあちらこちらと散策した。なかでもこの時期になると思い出すのは京都三室戸寺から黄檗山万福寺までの道のりである。

三室戸寺は紫陽花で有名で、参道横の杉木立には色とりどりの一万株の紫陽花が咲き乱れる。埼玉県大宮に単身赴任する直前、家内と娘と三人で行ったときに咲き誇っていた紫陽花の花々が忘れられない。

その道程（みちのり）をもう一度歩いてみたくて毎日懸命に1、2時間のウォーキングと猫の姿勢を続けている。歩き終えて汗びっしょりになり、万福寺の山門の下で風に吹かれるひと時はまさに極楽。

ということ今月の絵はマンションのエントランスの花壇に咲いた紫陽花の切り花である。

川柳天守閣 連載 評論 「現代川柳の詩学」を考える ⑥

―川柳の技法(1)『誹風 柳多留』の会話体の川柳―

十八世川柳宗家 閑成庵川柳 平 川柳(東京川柳会主宰)

川柳は庶民の文芸であり、江戸時代の「古川柳」は江戸に生きた庶民の「喜怒哀楽」を江戸言葉で表現しました。例えば、『誹風 柳多留』(初篇)には、次のような会話体の言葉をそのまま用いた川柳があります。

是これ小判ひとばんたった一晚居てくれろ

この前句は「あかぬ事かな、あかぬ事かな」です。庶民の暮らしでは「小判」は手に入ったかと思うと、すぐに出ていくものです。この「たった一晚居てくれろ」という会話体の言葉には庶民の本音が吐露されています。

『誹風 柳多留』(二篇)にも次のような会話体を用いた川柳があります。

てうちんをけせといひひひ飛車をなり

この前句は「すてて置きけり、すてて置きけり」です。将棋で形勢が有利に転じたところへ日暮れに迎える小僧が来たので「提灯を消し、ちよっと待ってろ」と命じ

敵陣に「飛車」を「成り」こますところです。

『誹風 柳多留』(三篇)の「序」には柄井川柳が明和元(一七六四)年頃から江戸座誹諧と同じような「句躰」(風体)の句を抜き、前句の題を略して掲載し、明和五(一七六八)年には『誹風 柳多留』(三篇)が出来上がったと述べています。三篇には次の会話体の句を収録。あいにくといひひひ飯をかりに来る

この前句は「かくしこそすれ、かくしこそすれ」です。急の来客などで、いつものご飯の量では間に合わなくなってしまう、「実はあいにく…」などと理由をこまごま述べて、隣りの家へ「飯をかりに来る」江戸庶民の姿を会話体で見事に描いた生活句です。

また『誹風 柳多留』(四篇)の「序」で呉陵軒可有は柄井川柳が「目新しい言葉」(めつらかなる言葉)を用いて「当世の誹諧」(江戸座誹諧)と「ひとしき句姿」を新たに選び出し、二篇、三篇、四篇を編集することになったと述べていますが、この「目新しい言葉」を用いた川柳とは、四篇に多くみられる次のような会話体の川柳をさしていると思われま



遣ひたてましたと下女へいとまごい

おとなしく寝やとみそ漬け一つやり

町へ行いきたいとやり手に実をいひ

犬がほえますと産婦におこされる

さらに次のような会話体の川柳が四篇には収録されています。

まだよかとくろうに思ふ里の母

前句は「やつしこそすれ、やつしこそすれ」です。前句に「やつし」は「見立て」と共に日本文化の基底にある美意識のひとつです。「見立て」があるものを別のものを使ってあらわし、連想によって結びつける表現方法であるのに対して「やつし」は常に人物に限られます。実家の「里の母」が「まだ子ができないのかい」と聞いては「苦勞」に「思ふ」。江戸時代、子どもが生まれない場合、女性は離縁されてもやむ得ないと考えられていました。「まだよか」は「まだかよ」という会話体。

さっぱりと書いてくれなと見くびられ

前句は「まよひこそすれ、まよひこそすれ」です。女

房は怒って夫に「離縁状」を「さあ書くなら、さつさと書いておくれ」と言っています。夫としたら、妻に見くびられたものである。

寝入らずに居すなと硯すずりを持って行ゆく

前句は「思ひ出にけり、思い出にけり」です。吉原の遊女が客に「ちよつと手紙を書いて来るから、寝ないでいてね」と「硯」をもって、どこかへ行ってしまった。

吉原では客がいるのに平気で長い手紙を書いて客をじらすことがあったといえます。これも遊女の客扱いのテクニクか。

鑓やりならばうぬらうぬらとしばられる

前句は「にわかなりけり、にわかなりけり」です。これは一六五一年に起こった「慶安の変」で江戸幕府の転覆を図った首謀者の一人丸橋忠也の川柳だといわれています。忠也は家を急に襲われ「鑓」を取る間がなかったので、「鑓があれば、お前らに縛られるはずがない」と悔しがった。この慶安の変は歌舞伎でも上演。(続く)

# 第15回 ウェブ川柳天守閣 ご案内

お題 「魚」 岩原 一角 選  
「市場」 濱脇 蓬生 選  
「永遠」 互 選  
「雑詠」 真鍋心平太 選  
「旅」(短句) 互 選  
(投句 各 2 句)

左記の投句、互選投票、結果発表の閲覧は  
下記 URL から可能です。**変更になりました。**  
<https://tensyukaku.com/>

投句、互選投票は会員登録が必要です。  
会員登録は下記 URL より **こちらに変更になりました。**  
[https://tensyukaku.com/id\\_make.php](https://tensyukaku.com/id_make.php)

投句開始 2024年7月9日(火) から  
投句締切 2024年7月15日(月) まで  
互選投票 投句締切後下記の期間内に投票して下さい。  
7月16日(火) ~ 7月19日(金)  
披講発表 7月20日(土) から随時閲覧可能になります。

スマホは下記 QR コードから



投句・閲覧



会員登録



パステル画 「紫陽花」  
(クリックすると大きくなります。)

携帯 080 (2672) 4446  
TEL・fax 077 (532) 4211

川柳天守閣

サンルシエル大津607号室

滋賀県大津市逢坂一丁目8-1

〒 520-0054

(事務所)

(編集人 真鍋心平太)

(発行責任者 真鍋心平太)

ウェブ川柳天守閣会報

二〇二四年六月二五日発行